

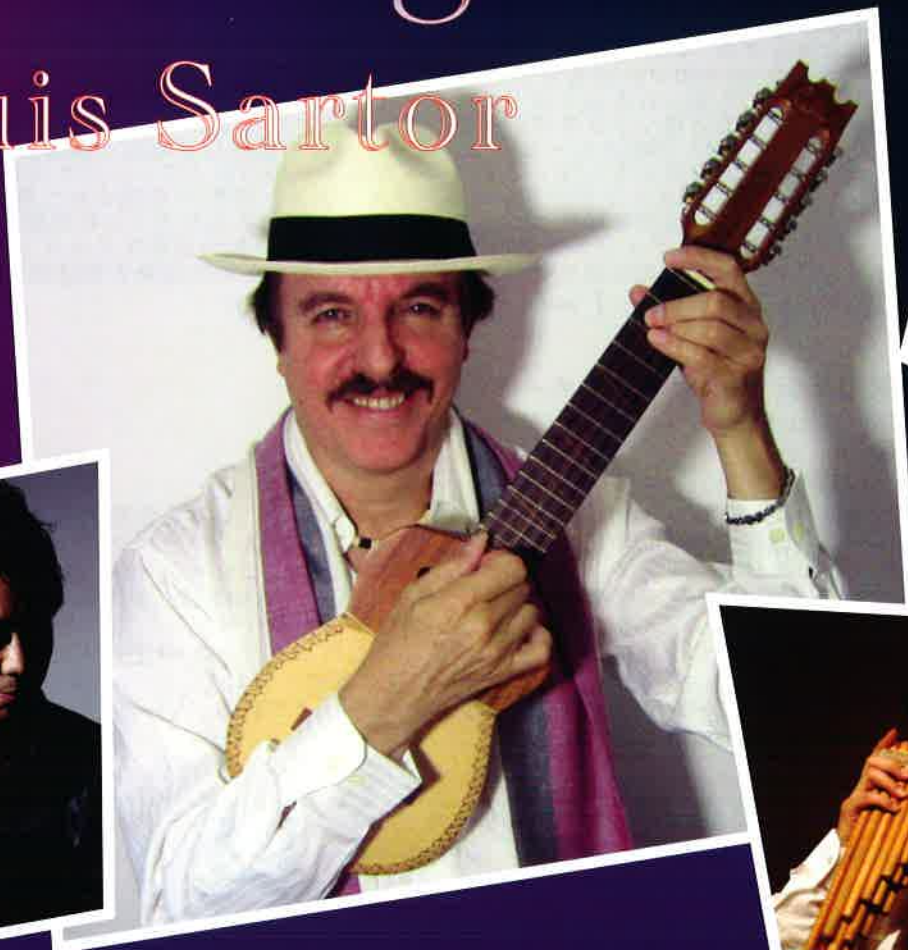
ルイス・サルトル

in 名古屋

チャランゴマスター

Charango Master

Luis Sartor



アルパ
峰岸桂子



ギター
助川太郎



ケーニャ/サンポーニャ 他
岡田浩安

多彩なルイスワールドが
名古屋にも上陸！

2019. **11.17** (日) 開場 13:00 / 開演 13:30



HITOMI ホール

名古屋市中区葵3-21-19 メニコン ANNEX 5F

入場料[全自由席]: 一般 3,500円 / 学生 2,500円

【ご予約／お問合せ】

アルパ教室「コリーナ」

TEL.090-2525-4143 / arpacolina@gmail.com

【チケットお取扱い】

●メニコンANNEX受付 TEL. 052-935-0918

●芸文プレイガイド TEL. 052-972-0430



JRでお越しの場合
千種駅地下改札口方面、5番出口より徒歩4分

地下鉄でお越しの場合
東山線:千種駅5番出口より、徒歩約4分。
桜通線:車道駅4番出口出てすぐ左折。徒歩で約7分

お車でお越しの方
googleマップよりご確認の上 お越し下さい。
なお、駐車場はございませんので、お近くの
コインパーキングをご利用ください。
(搬入の際はご相談ください。)

主催: アルパ教室「コリーナ」 **COLINA**

広大なアルゼンチンの大地から産まれた音楽
そして熱く唄い、熱く語るチャランゴ
ルイスのエネルギーがほとばしる！



ルイス・サルトル：チャランゴ・ヴォーカル
Luis Sartor:Charango, Vocal

1952年 アルゼンチン共和国サンタ・フェ州に生まれる。1978年 ケーナの巨匠アントーオ・パントーハの日本ツアーのメンバーとして来日。1985年 活動の拠点を日本に移し、以来ラテン音楽の魅力を日本に広めるべく活躍するマエストロ。現在、アルゼンチン在住。マンドリン、チャランゴ、ギター、キーボード、パーカッションを自在に操り、シンガー・ソングライターとしても多彩な才能を発揮。桑田圭祐が監督を務めた映画『稲村ジェーン』のサウンドトラックや '95年にグラミー賞《ベスト・ラテン・アルバム》にノミネートされたオルケスタ・デ・ラ・ルス・アルバム『ラ・アベントウーラ』に楽曲を提供。さらに、大のサッカーファンとしても知られるルイス・サルトルは、2002年「FIFAワールド・カップ」でサッカー日本代表に送る応援ソングを作詞作曲し『VIVA日本』をリリース。音楽活動の傍ら、Inter FM(76.1MHz)のDJ、CMのナレーション、スペイン語の翻訳など幅広く展開しており、著書に、画期的な教則本《チャランゴ・マスター》がある。2007年『ワールドサッカーウィニングイレブン2008』((株)コナミデジタルエンタテインメント発売)で使用された音楽、編曲、プロデュースを担当。2009年10月 ポリビアのポトシで開催されたポトシの国際議会および、チャランゴ・フェスティバルに参加。2013年より音楽活動の基盤をアルゼンチンに移す。音楽を通して故郷の先住民モコビ族の誇りを取り戻すための活動を積極的に行う。

【Official Home Page】www.charangomaster.com



岡田浩安：ケーナ/サンポーニャほか
Hiroyasu Okada:Zampoña,Quena

1969年生まれ。静岡県出身。12歳の時にフォルクローレに出会い、ケーナを始める。日本を代表するフォルクローレグループ「MAYA」の1987年創立以来のメンバー。アンデスのフォルクローレをはじめ、様々なジャンルのアーティストとの共演、フリーのインプロビゼーション(即興音楽)まで幅広いシーンで活動する。現在までに4枚のソロアルバム、MAYAをはじめとするグループとのユニット、プロデュース作品等で10枚以上のアルバムをリリースしている。

現在、数少ないサンポーニャ、ケーナ奏者としてコンサートやライブ活動の一方、南こうせつや島倉千代子、KOKIAなどへの参加、音楽制作、プロデュース、サンポーニャをはじめとする楽器のワークショップなど幅広い活動を行っている。

葦工房、balsitaレーベル主宰。



助川太郎：ギター
Taro Sukegawa:Guitarra

日本中を旅しながら音楽を届けるギタリスト。南米ブラジル音楽とフォルクローレに造詣が深く、またジャズとクラシックの知識も併せ持つ。アコースティックギター1本で紡がれる音楽は南米の名曲、日本の童謡、クラシックの小品、そして大好きなコーヒーにまつわるオリジナル。初めて聞く人に親しみやすく、耳に優しい音。でもじっくり聴きこむと、その奥にいろいろな世界が広がっています。東京都出身。高校1年生15歳の時に洋楽ハードロックに衝撃を受け、ギターを始める。大学時代にジャズギターを志す。しかし楽譜が読めず、読譜向上のためにクラシックギターを始める。2年後、クラシックギターコンクールで入賞。1998年、奨学金を得てアメリカのジャズ名門パーカー音楽院に留学。卒業後はニューヨークのジャズシーンで活動する中、明るく楽しく切ないブラジルの音楽に出会い、転向を決意。2003年に帰国し、ボサノバユニットでメジャーデビュー。国内のあらゆるブラジル音楽ミュージシャンとの共演を経て、2013年よりソロギター活動をスタート。現在はギター1本と膨大なレパートリーを携えて、精力的に全国ツアー中。趣味は各地での美味しいコーヒー屋さん巡りと温泉。



峰岸桂子：アルパ
Keiko Minegishi:Arpa

チューチョ・デ・メヒコ氏に師事し、メキシコのレパートリーを中心にラテン音楽の心を学ぶ。学び始めて早くからチューチョの補佐として教え始めるまでに至り、1998年より演奏を中心に活動を始める。東京、横浜を拠点に、コンサート活動を行なう傍ら、ディナーコンサート等に多数出演。ソロ活動とともにアルパやアイリッシュハーブとのデュオ、クラシックギターとのアンサンブル、電子楽器との共演など、ジャンルの枠を超えた活動も積極的に行なう。2004年、2005年とパラグアイに渡り、マルティン・ポルティージョに師事。またメキシコのアルパハローチャの大家アルベルト・デ・ラ・ロサに師事。レパートリー、テクニックの幅を広げ、多岐に亘るコンサート、イベント等、数多くのステージをこなしている。また2006年にはテレビ朝日系列でオン・エアされた、野坂昭如原作“戦争童話集”アニメ『焼跡の、お菓子の木』の音楽演奏を担当。多忙な演奏活動の中、横浜、名古屋を中心に後進の育成にも余念がない。



Menicon ANNEX



きれいな空気
種にも

メニコンは禁煙運動を推進しています